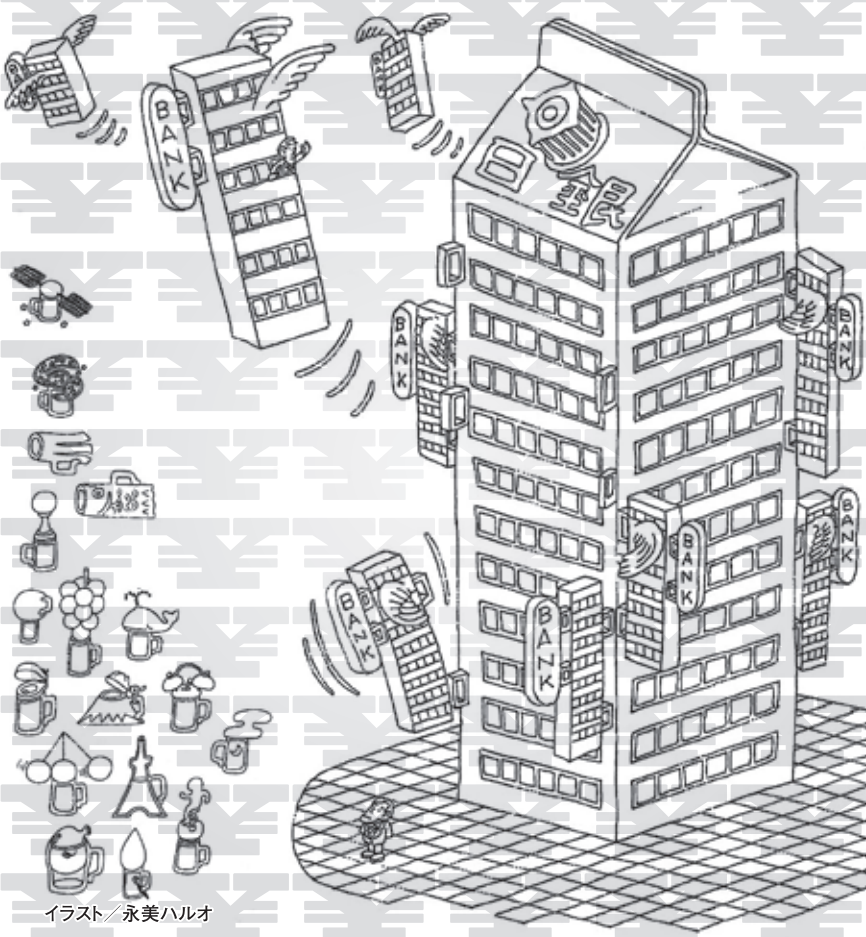


酒
フ
ア
ン
ド

北原伸一



イラスト/永美ハルオ

「おいおい、親父よお。社会人になってまだ数年で、世の中のことはいくらもわかっていないけどさあ。いったい『マイナス金利』ってのは何なんだ。俺だって将来のことを考えて、少ない給料から細々と毎月、貯金しているんだけど、それでなくとも微々たる利息なのに、逆に俺が銀行に利息を払わなければいけないってことかあ」

おおつ、我が息子よ。国政選挙の投票日でも自宅でゲームに没頭していたあのボンクラ学生が、大学を卒業して、なんとか就職を果たし、ようやく社会の一員としての自覚が芽生えてきたか。父の育て方は間違っていないかったな(泣)。

……マイナス金利か。1月下旬の日銀の政策決定会合で導入が決定されたんだったな。日本初ということ、テレビでもニュース速報のテロップを流していたっけ。

通常で考えると、息子よ、お前の捉え方は間違っていない。マイナス金利とは、まさに預金している分の利子を銀行へ支払わなければならない。だが、今回の日銀が決定したマイナス金利は、日銀と各銀行との間に生じる金利の話だ。各銀行は日本銀行に口座を持ち金を預けているが、今後、新規で預ける分についてマイナス金利(マイナス0・1%)が導入されるということだ。

だから、安心しろ。お前のわずかばかりの預金にマイナス金利が導入されることはない。

それがどう影響するのかわるか。息子よ、食いついてきたな。

銀行はマイナス金利が導入されることで、日銀に預けておくよりも、企業へ貸し出したり、他に投資したりすることが有利になるから、市場に資金を流通させることになるってことだ。そうならば、企業は設備投資や賃上げに金を回すことができるようになり、最終的には景気が刺激されるってことにながっていく。日銀は2016年後半から17年へと後ろ倒しにしたとはいえ、物価上昇率2%を目標に掲げているから、マイナス金利もその実現のための施策であり、アベノミクス「3本の矢」のうちの1本というわけだ。

その音は、ひざ頭をポンと打った音だな、「なるほど」と言うわけか。

で、息子よ。お前にも近い将来、伴侶ができて、クルマや住宅を購入する時期が来る。そのとき、今のマイナス金利がどう影響しているのか、きちんと見しておく必要があるぞ。関係ない他人事と思っただけはいけないぞ。

とはいえ、我々庶民は本当に長い間、低金利にしびれを切らしてきた。いかに自らの資産を増やすか、実に悩ましいテーマだった。

ん？宝くじでも買うか。それもよ
からう。ただし、宝くじに当たるのは
交通事故に遭うより確率が低いぞ。
それならおまえも大人だ、「投資ファン
ド」に興味を持ってみたいらどうだ。

ファンドを通じて 酒造りへ参加

投資ファンドってなんだ？そこから
わからないか。手っ取り早く、「ウィキ
ペディア」でも調べてみる。

〈投資ファンドは、複数の投資家から
集めた資金を用いて投資を行いその
リターンを分配する仕組みをいう。〈中
略〉日本法上における投資ファンドは、
一般に組合、投資事業有限責任組合な
どの法形式をとって組織する場合と、
投資信託を用いる場合が見られる。金
融機関などの投資関連部門と比べる
と、法規制などによるコントロールが
厳しくないことから、比較的機動的な
運用が可能であり、また必要に応じて
ファンドの形態を使い分けることがで
きることから、便宜的な投資のた
めの資金の受け皿として用いられてい
る面がある。〉

今では投資対象は様々なものに広
がっている。企業への出資や、不動産を
使った商品がオーストックスだったが、
例えば、ファンドで集めた資金で映画

を製作、興行収入を投資家で分配する
というものも組成された。個人投資家
を対象とした最初の映画ファンドは確
か05年に公開された「SHINOBI」
だった。一口10万円、総製作費15億
円のうち5億円を1300人の個人投
資家と5法人で賄ったと報道された
はずだ。だが、興行収入が芳しくなく

元本割れだった。つまり、ハイリターン
であるほど、リスクも大きくなる。

なぜそうした話を「コンタツだより」
でするのかって。

なかなかいい質問だ！

今ではいろんなものが投資対象に
なっていると、さっき言った。その中に
は酒造りを対象とするファンドもあ

るってことを伝えたかったのだ。

いろいろ調べてみると、日本酒を対象
にしたファンドの第1号は、「神亀ひこ孫
ファンド」(償還済み)だったらしい。
ファンドの募集期間は07年9月から
2カ月ほどで、1050万円を集める
べく、一口5万円で210口募集してい
たようだ。出資者には蔵見学への招待
と、日本酒&酒粕の贈呈などの
特典がついていた。

その後、後を追うように、泡盛
の古酒ファンドや日本酒ファンド
が組成された。それぞれが、特典
が付き、投資をしながら酒造り
に参加している気分にもなる。
愛飲家心理を巧みにくすぐる
投資商品になっている。

いくつか見てみよう。

「近江 竹内酒造『香の泉』ファン
ド」では(農口杜氏の愛弟子と行
う新たな酒づくり)というキャッ
チフレーズで一口3万1710円。
130人、約2000万円を募集
している。資金使途は酒米などの
原材料費に充てるという。特典と
しては、地酒一本と銘柄がプリン
トされた通い袋のプレゼントが
用意されている。

「芋焼酎あくがれ蒸留所ファ
ンド」は一口3万1710円で
150人の募集。およそ900万



円の資金を集めるように組成されている。特典として、ファンド限定ラベルの原酒(9000円相当)が贈呈される。

「崎山酒造廠 泡盛古酒ファンド 2015」は、一口2万1140円で357人を参加人数としている。募集総額は1680万円。特典として、好きな泡盛古酒2本と、蔵見学会&BBQパーティへの参加などが企画されている。

ファンドの種類は酒ばかりではない。食品から工芸品、地域スポーツの支援まであらゆるものが投資案件となっている。

ところで、この稿は投資を推奨するコーナーではない。ここで挙げたファンドはいずれも原稿執筆時は募集中だったものだが、この号がお手元に届く頃はどういう状況にあるかは不明で、投資を考えるにしても、あくまでも自己責任でお願いしたい。

忘れてはならない ハイリスクハイリターン

3月7日、東京の「ヴァンネット」なる企業の破産のニュースが飛び込んできた。じつはこの会社、日本で唯一のワイン投資ファンドを組成、運用しているという会社だった。

主にフランス・ボルドー地方のプリムールワイン(ブドウ収穫後に樽で熟成中のワイン)の買い付けによるワイン投資を手掛けていた。

投資家には01年4月〜14年6月、買い付けたワインを値上がり後に売却し売却益の一部を配当に回すとしていたが、社長自らがワインを買い付けたものの、売却業務に関して社内に虚偽の報告を行い、昨年暮れに関東財務局から第二種金融商品取引業の登録取り消し処分を受けていた。

その後の調べで、投資対象のワイン商品の在庫が激減していたことが判明、結局は破産に追い込まれた。負債総額は未償還出資者523人に対して36億7000万円。

このヴァンネットをもう少し調べてみると、実質的な経営者だったK氏が、別のコンサルティング会社で無登録なまま海外ファンドに関する募集を行い、業務停止および業務改善命令の行政処分を受けていたという過去が判明した。

こんな人物が愛飲家の気持を踏みにじり、資産を食い物にしていたのだ。今にして思えば、このファンドは、やらと安全性を強調していたという。

何度も言わせてもらおうが、ハイリターンには常にハイリスクが併走していることを忘れてはなるまい。

左党オヤジの 良い酔い散歩



お笑いコンビのさましすが、若大将の加山雄三が、そしてテキーラな雰囲気ウケているタレントの高田純次が、あちらこちらの街を気ままに歩く。さらに漫画家の蛭子さんと、元関取の舞の海関も途中下車。そんな「散歩旅番組」が人気だということならば「コンタツだより」にも散歩コーナーがあってもいいのでは？

そんな天の声が左党オヤジに届いたときには、すでに電車の中、さてさてどこへいこうかな。そういうわけで、始まりました左党オヤジの散歩のコーナー。気の向くままに、さまざまなお酒のイベントに行ってみよう！

そういうわけで、記念すべき第1回目は、「なかのぶスキップロード中延商店街」に出発。暦の上ではすでに春とはいえまだ肌寒い3月6日のことでした。東急大井町線中延駅と東急池上線荏原中延駅をつなぐ、この330メートルに及ぶアーケード街ではこの日、「新酒の地酒路」が開催されていたのだ。

この長いアーケードに全国から17歳が集まるといふ。開催は13時半〜15時半なのに、昼過ぎには早くも日本酒ファンがチラホラ。蔵人たちが半被をまとい始める。左党オヤジも受付をして、イベント参加者の証であるリストバンドを装着した。右手に案内パンフ、左手にぐい飲みならぬ、プラスチックカップ。態勢は整ったさあ、宴の始まりだ。

今回集った蔵元は、①白神酒造(青森県)、②尾崎酒造(青森県)、③朝日酒造(新潟県)、④結城酒造(茨城県)、⑤木戸泉酒造(千葉県)、⑥藤井酒造(広島県)、⑦源平酒造(福井県)、⑧尾畑酒造

(新潟県)、⑨八戸酒造(青森県)、⑩志太泉酒造(静岡県)、⑪三千櫻酒造(岐阜県)、⑫藤本酒造(滋賀県)、⑬飯沼本家(千葉県)、⑭中沢酒造(神奈川県)、⑮小澤酒造(東京都)、⑯田村酒造場(東京都)、⑰八百新酒造(山口県)、各蔵がアーケードに散らばり自慢の地酒を振る舞っている。そこに地元商店街の飲食店がつまみを並べ彩を添える。鶏のから揚げが美味そうだが、購入者の長蛇の列、後回し、後回し。まだまだ奥は長いぞ。まさになが〜い居酒屋だ。

アーケード中ほどにある商店街事務所3階の大広間では、琵琶や三味線のミニライブや漫歩、日本酒に関するセミナーも開かれている。よし、三味線の調べを聴きながらまたま横に座ったおちゃんで、ともう一献、初見でも平気で打ち解けることができる、これぞ酒の良さかと重ねてきた年齢の賜物だ。主催者を代表して、地元商店街で酒販店シユウ・サケ・コーポレーションの北山秀人代表が言う。「4回目を数えるこのイベント。1000人を超える大きなイベントになってうれしいうれしい限りです。でも、あまりに規模が大きくなったため、次回以降は規模を小さくして毎月第三日曜日の定期開催にしたいと考えています。多くの蔵元に来ていただくのは難しいかもしれませんが、より密接にお酒の説明を聞けるようになると思います。5月以降もぜひご参加ください」

普段はなかなか飲めない酒にも出会った。左党にとつてなんとも楽しいお散歩タイムだが、それにして長い商店街だ。

